

## アメリカン キルトの研究(9)—キリスト教の信仰との関わり

玉田 真紀 (尚綱女学院短大)

目的 アメリカではヨーロッパ各地から新大陸に移民した人々によって、ベットカバーとしてのキルトが持ち込まれ、生活に欠かせない物として大量に作られた。キルトは、生活環境に適応しながら移り変わり、生活のあり方を反映している。キルトがどんな目的で作られ、生活の中でどんな役割を担ってきたか、またこれらを通して、現代社会では希薄になってしまった物への価値を見直していくことが研究の目的である。

本研究(9)では、キリスト教の信仰が人々の生活を支えていた19～20世紀初めに、その信仰がキルトの中にどう表わされ、どんな役目を担ってきたかについて考察した。

方法 アメリカ史に関する研究書と生活を記載した日記や小説、また、現存するキルトについての研究書など文献資料を基に考察した。

結果 キルト文様の画題の分類は先の(7)で報告したが、その中でも聖書の人物やイエスを象徴する十字架や茨、星などや、たとえ話を示す名がついた文様が数多く見られた。図形としての面白さによって単に好まれたのではなく、文様の持つ意味が重要であったことが、信仰によって生きることを勇気づけられ、聖書のことばを生活の支えとしていた当時の生活の記録からわかる。また個人で作るキルトだけでなく、教会やW.C.T.U (女性キリスト教禁止教会)などの活動を進めるためにも、資金集めや思想を普及する媒体としてキルトは使われた。日本でも19世紀末にキリスト教布教のため来日したアメリカ人女性が、日本の学校設立などのためキルトにより資金集めをしたという事実があった。キルトは活動の志を果たすために役割を担ってきたことがわかる。